滿洲日報

告示

關東總督府管內(租借地ヲ除ク)土地家屋貸下內規

第一條 本內規ニ於テ土地家屋ト稱スルハ關東總督府管內ニ在ル官有ノ土地家屋營造物其他一切ノ不動產ヲ云フ

第二條 土地家屋ハ官ニ必要ナラザルモノニ限リ一定ノ貸下料ヲ徵シテ一般人民ニ貸下タルコトヲ得但貸下料ハ每月之レヲ前納セシムルモノトス

關東總督府經第一九六九號ノ場合ニハ貸下料ヲ徵收セズ

第三條 土地家屋貸下期限ハ一ケ年以內トシ繼續貸下ヲ希望スル者アルトキハ更ニ出願許可ヲ受ケシムルモノトス但事業ノ性質ニ依リ特ニ認可ヲ得タルモノハ此限リニアラズ

第四條 土地家屋ノ貸下取扱ハ軍政官又ハ軍務官(軍政官又ハ軍務官ヲ置カザル地ニ在リテハ其地ノ軍政ヲ所轄スル官衙以下之ニ倣フ)之レニ任ス可シ

第五條 軍政官又ハ軍務官ハ貸下グベキ土地家屋ノ等級區分及ヒ貸下料ヲ定メ豫メ總督ノ認可ヲ受ク可シ但シ略圖ヲ添附ス可シ

第六條 同一ノ土地家屋ニ對シ同時ニ二人以上ノ借受出願者アルトキハ其貸下ハ競爭入札ニ依ル競爭入札ノ方法ハ軍政官又ハ軍務官之レヲ定ム可シ

前項ノ土地家屋ニ就キ第三條ニ依リ繼續貸下ヲ願出ツルモノアリテ入札者中ニ於ケル最高額ノ貸下料ヲ納付スルトキハ其出願者ニ先借權ヲ有セシムルモノトス

第七條 借入人借受目的以外ノ用途ニ土地家屋ヲ使用セントスルトキハ更ニ出願許可ヲ受ク可キモノトス

第八條 借受人借受ノ土地家屋ヲ他人ニ轉貸シ又ハ當該土地家屋ノ上ニ有スル權利ヲ債務ノ擔保ニ供シタルトキハ直チニ貸下ノ許可ヲ取消スモノトス

第九條 土地家屋ノ借受人第七條ノ規定ニ違反シ若クハ天災其他避ク可カラザル事由ニ依ルニ非スシテ借受ノ日ヨリ二ケ月以內ニ借受ノ目的タル施設ニ着手セズ又ハ着手スルモ其目的ヲ遂行スル意志ナシト認メタルトキハ其貸下ヲ取消スモノトス

第十條 借受人借受タル土地家屋ニ修繕ヲ加ヘ又ハ其他ノ工事ヲ爲サントスルトキハ願書ニ工事費豫算書ヲ添付シ其地ノ軍政官又ハ軍務官ニ出願セシムルモノトス

前項ノ場合ニ於テ軍政官又ハ軍務官ハ工事豫算書ノ正確ナルヤ否ヤヲ調査シ許否ヲ決スルモノトス

第十一條 借受人前條ノ規定ニ依ラスシテ修繕其他ノ工事ヲ爲シ若クハ故意又ハ怠慢ニ依リ土地家屋ヲ荒廢毀損亡失セシメタルトキハ相當ノ賠償ヲ命スルモノトス

第十二條 借受人自己ノ便宜ニ依リ借受中ノ土地家屋ヲ返還シ又ハ返還ヲ命ゼラレタル場合ニ於テ其ノ土地家屋ニ加ヘタル工事又ハ定着物アルトキハ軍政官又ハ軍務官ハ相當ノ期限內ニ復舊工事ヲ爲サシメ又ハ其物件ヲ除去セシム可シ

前項ノ期限內ニ復舊工事ヲ終ラサルカ又ハ定着物ヲ除去セサルトキハ借受人ノ負擔ヲ以テ官自ラ復舊工事ヲ爲シ尙ホ損害アルトキハ之ヲ賠償セシメ定着物ハ之レヲ沒收ス

第十三條 前條ノ場合ニ於テ軍政官又ハ軍務官ニ必要ト認ムルトキハ第十條ノ工事豫算書及其他ノ狀況ヲ參酌シ相當ノ價格ヲ以テ工事及物件ヲ買收スルコトヲ得但シ此場合ニ於テハ關東總督府經理部長ノ承認ヲ受クルヲ要ス

第十四條 貸下クル土地家屋ニシテ官ニ必要ヲ生ジタルトキハ何時ニテモ其一部若クハ全部ヲ徵用シ又ハ返還ヲ命ス但シ止ムヲ得サル場合ノ外家屋ハ一週日土地ハ一月前ニ豫告ヲ爲スモノトス

第十五條 軍政官又ハ軍務官ハ停車場域內及其附近又ハ鐵道沿線上其ノ他將來ニ於テ軍事上行政上重要ト認ムル土地家屋ヲ貸下クルトキハ移築改築復舊工事等ニ多大ノ日時ト手數トヲ要スル永久的築造物ノ建設又ハ著大ナル變造ヲ施スコトヲ許可スベカラズ

第十六條 前條ノ規定ハ租借地內ニ在リテモ亦之レヲ適用ス

告示

來る廿日より廿八日迄在留日本人の種痘を司法部裏醫務所に於て無料施行す

月　日　營口軍政署

公告

本官ハ本日午後二時廿五分當地發一時歸朝ス不在中ハ堀越憲兵長ヲシテ代理セシム

明治三十九年二月廿日

營口軍政官　與倉喜平

特別廣告

▲資本金貳千四百萬圓
▲積立金一千零拾四萬圓

本支店出張所
横濱　神戶　東京　長崎　大阪
倫敦　里昂　紐育　桑港　布哇
孟買　香港　上海　天津　北京
大連　旅順　奉天　芝罘　鐵嶺

電話百十八番　支配人室　事務室

横濱正金銀行牛莊支店

清酒東自慢、白鹿
朝日ビール
孔雀印平野水、箱根水
上等石炭
以上極廉價を以て發賣致候間御用仰付被下度候也
松茂洋行商業部　河岸通(電話五十二番)

三井洋行
啓者本行開創在中外通商各埠已有年歷所售棉紗棉布火柴煤炭糖海參等各貨均皆物美價廉名馳遠近如蒙各商光顧請認臨是荷
●精製白砂糖新入荷物あり
倉庫部
今回倉庫所在地(靑堆子精搗場上隣り河岸)の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は仝所へ御照會被下度願上候
(電話百二十八番)

宅合名會社分莊
本號前在營口東營元神廟街自造日本酒澤龜印并一切雜貨其名譽已傳播於滿洲全地矣今又擬在西營子老爺閣街同盛棧院內分設支店一所發賣綿絲綿布火柴絲布衣荷標布手巾花巾東洋綢子洋腕食物俱全而價値尤格外從廉且貴客賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請早臨爲幸
運輸部
這般特得官准開設火車轉運行於東西兩店并牛家屯分此殊以李吉甫田彫超等之華人敏活細心以責任欲膺事與本業賜顧幸甚
總司理人田中賴之助謹白　電話　東店五五　西店一〇三

東盛和
本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋烟糖[illegible]雜貨發行並經[illegible]保險代客經理買賣糧[illegible]裝運事宜營口廣東兩處自置[illegible]輪船二艘棧房地方寬大凡油輪船裝卸貨物極爲利便囤貯油餅豆米麥更爲合宜兼置有輪船一艘名城多利能載重二萬担如有欲僱船運貨及存棧貨物水腳棧租格外從廉 貴客賜顧請到小號面議是荷
總司理人　葉亮卿謹白

東永茂
本號在營口創辦油房生意多年以本營業兼辦代客油房營業及經理買賣雜貨布疋等物并代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚遐邇知之
正理事　孫玉田　副理事　金錫魁　設在營口西北街路南

西義順
本號開設營口西街老爺閣前路南營乙第五號專營裝卸輪船上下各貨兼辦糧棧寬大凡中外　士商賜顧者請認明招牌決不致悞
本主人敬啓

仁裕號
係發運各幫火輪船生意兼賣各樣洋什貨糧石等此佈
營口西大廟街路北營乙第十三號

恒有長
本號開設在西大廟街路南第十一號廣辦雜貨一應俱全價値格外從廉克己并另設銀爐包管鎔鑄以應急需久爲　中外士商所推許凡賜顧者請認明招牌爲荷

元茂盛
油坊買賣元豆豆油豆餅雜色糧石以及代客賺耕雜貨布疋一概發行裝運沙寶[illegible]船交易南北客商歷有年矣爲此謹白
開設營口西街老爺閣前路北營乙第四十九號

代代米烟公司
本行專售　日本官造紙烟　星象牌(菊迺)櫻花牌(敷島)百合花牌(利利)均已馳名內外茲特選上等烟料加工精製雙仙鶴牌(福祿壽)淸香撲鼻佳美適口價值極廉諸君欲購可向敝行或請至本行公司代理店西營口大德元採買庶不致誤謹此廣告

大日本政府特定
官製口付紙捲烟草
滿洲一手輸入發賣
江副洋行
營口永世街

和泉洋行
本店開設在營口重盛街、發賣毛布、手巾、小布衫、襪子、錢袋、帽子、洋蠟、小刀及其餘各種雜貨一概俱全價値格外從廉克己、凡中外仕商賜顧者、請速臨爲幸、
大阪府堺市熊野町　藤原謹啓

田中牛莊分莊
啓者本舖開設於東營口綏定門外經大阪九三組精選東緊身洋式褂子羊肚手巾各樣新近進口來的貨寄於本舖代售格外從廉　賜顧者請光臨本舖面議是幸
田中牛莊分莊謹啓

材木販賣
荒物
秋田洋行
營口永世街第一八四號平野町
本店　下關　秋田寅之輔商店

飯塚工程局材料出售
啓者本局今特與日本北海道天鹽木料公司訂以日本輪船運到各種木料品質精良久已馳名圖遠以之架造屋宅及製各色傢具無不合宜且價値格外從廉克己凡中外士商賜顧者請來本局東營口元神廟街本工程局面議不俱專本十新到各種木料東洋炸子貨具價實以應各主顧局之需
本主人謹

●雜貨卸小賣商　附日用食料品
●菓子製造販賣商
●委托販賣商
●土木建築受負業
●滊車積運送業
新民府孫家街
東洋號

電氣諸機械
大販賣
本店　天津日本租界電話二〇〇
支店　營口永世街甲二一五號
三友洋行電機部(電一五四番)

工
營口元神廟前
飯塚工程局材料部
(電話百三十五番)
弊局土木建築材料品の各產地と特約を結び廉價を以て多少に不拘賣却仕候間御引立の程奉希上候
一北海道產松大角材外種々
一石灰、石材、敷石、砕石、煉瓦等
一日本石炭數種

○報價
每月收取八角代賣所及遞報人并無分毫加增
○告白刊例
一行五號二十一字起碼登一日者每行二角每登十日行一角五分登月者每行每日一角登長年者價當面議從減
每張四百文

賣捌並廣告取次所
大連市穩歧町三百三十八號　日華運輸公司
大連市盤陽城四樂九番地　岡野新聞舖
奉天大南門內景祐宮胡同　全泰號
遼陽　遼俱町十　谷口今朝太郎

...價銀五吊四百文至五吊
綿共上貨三十餘種
遼綿共...七十餘種
元豆六吊九百至六吊八百

一同...
一袋眞綿
一改良半紙
...二十本入　同一圓七十錢
六枚入百袋　同一百三十圓
一〆　價三圓
關東公司

一...
一白味噌　正五貫入一樽　同二圓八十錢
一同赤　正十八貫入　同八圓五十錢
一堅パン　七貫入一函　同九圓
矢野洋行

一...
一メリヤス手袋　打同一圓五十錢より五圓迄
一小供手袋　打同...
一女シャツ　打同六圓八十錢より十圓位迄
一小供シャツ上下　打同九圓位より廿圓位迄

Rates for Advertisement 20 cts. per line.
Payable in Advance. Postage Included.
The Manchuria Daily Report Office.
Newchwang.
Telephone No. 29.

廣告料　一行　銀十五仙乃至十...
半ヶ月以上一ヶ月以內
一長期連揭減價面議
發行所　清國營口中盛街　滿洲日報社(電話二九番)

東京電報

●統監出發と見送者 二十日朝伊藤統監大磯發に付昨日以來見送りの爲め大宮紳士大磯に赴く者多し

●減債法案の可決 減債基金法案は貴族院委員會に於て可決せり

●銀貨改鑄案提出 政府は五十錢二十錢銀貨の改鑄法案を議會に提出せり

●滯口少佐の査問 滯口少佐等十九日海軍省に出頭査問を受けたり

●地方官招待會景況 十九日の地方官招待會には西園寺首相の演説あり原内相は今回の招集は内債の件主要なるものなりとの旨を述べたり

●大島總督の出發 大島關東總督には兩三日中に出發すべし

（以上二月十九日發電）

●勳章捧呈と御答訪 コンノート親王殿下には今朝參内謁見の上英皇より御贈呈遊ばされたるガーター勳章を捧呈せられ御退出後天皇陛下よりも同殿下を御訪問遊ばされたり

●大勳位御贈進 天皇陛下にはコンノート親王へ大勳位菊花大綬章を御贈進あらせらる

●同上別報 コンノート親王殿下へ菊花大綬章を贈進せられたる外隨員リーズデール、シーモア、ケリーケンの三氏へ勳一等旭日大綬章を賜へり

●募債規定の公布 内國公債二億圓募集規定本日公布せらる

●募債發表の詳報 本日官報號外にて臨時事件公債二億圓募集の件發表、利率五分、五ケ年間据置、以後二十五個年内に償還、發行價格九十五圓、應募申込期限三月八日より二十迄、第四第五回國庫債券募集拂込現金に代用するとを得

●清國政府へ忠告 政府は支那政府に對し此際對外關係に鑑み排外熱の勃興を防ぎ鎭靜に盡力するの急務なるとを忠告したりと聞く

●鐵道國有法案 鐵道國有法案は内閣の手に在りて未決閣員中反對論もあり三菱派の反對熱高しと

●兒玉男と參謀總長 兒玉臺灣總督は參謀總長たらんと言ふ者あり

（以上二月二十日發電）

倫敦電報

●獨帝の使節優待 獨逸皇帝ウィルヘルム陛下はコペンハーゲンに於て佛國使節フーレル男を御乘艦に引見せられ優渥なる待遇を與へ給へり

●丁帝と名譽大將 丁抹皇帝は獨國名譽海軍大將に任せられたり

（以上二月十九日發電）

雜報

●日土通商條約 本邦と土耳古との間には數年前通商條約締結の交渉を開始したるが日露開戰の爲めその儘となり居たるが今回の戰捷にて我國威の大に發揚せられたると共に昨今同國朝野の間には頻に條約締結の急務を主張するものある由なれば近き將來に條約成立調印を見るやも知れずといふ

●英皇甥と我海軍 我皇室に最高勳章御贈呈の爲め遙々御來遊の英國皇族アーサー、コンノート親王殿下に對しては海軍部内にても十分の歡迎を盡さん希望なるも何分目下常備艦隊には修理中の軍艦多く其多數を集合せしむること事情の許さゞる所なれば第一艦隊の一部即ち八雲、吾妻、常磐、磐手等をして歡迎の任に當らしめ殿下の近畿、九州地方御遊覽の節神戸、鹿兒嶋方面に回航し海上の警備をなす都合なりと

●日本公使館の開館 駐露本邦公使及び公使館員も夫々任命せられ其先發館員は已に去る十三日を以て露京に到着せるを以て豫て保護を依頼し置ける米國大使館よりも我公使館を受取り目下其開館準備中なりといふ因に本野公使は三月中旬舊任地巴里を出發して露京に赴くへしとなり

●清國皇族發程 御滯京中なりし清國皇族載澤殿下には東電の如く隨員一同を從へ去る十三日午前十一時新橋發汽車にて御退京横濱へ赴かれ揚清國公使丹羽宮内書記官、佐藤陸軍少佐等同地まで陪從し新橋停車場へは榎本子爵、鍋島侯爵、長岡子爵、福島陸軍少將、嘉納治五郎、下田歌子、河原操子、渡邊式部官及び英國大使マクドナルド、白耳義公使ダヌタン男其他清國公使館員、在京清國人等御見送り申上げたるが殿下一行は午前三時横濱解纜の米國汽船ダコタ號にて米國へ向け出發せり

●日英同盟紀念祝宴 十二日は明治三十五年日英同盟を締結せられたる紀念日に相當するに付加藤外相は十二日午後七時英國大使サー・クロード・マクスウエル・マクドナルド氏以下同大使館員及び[illegible]、齋藤、阪谷、山縣、松田の各大臣兒玉總督、東郷軍令部長、等數十名を霞ケ關官邸に招待し晩餐會を催し兩國皇帝陛下の聖壽奉祝を爲し同十時過散會したり

●俘虜送還終了期 全國に於ける露國俘虜引渡地中既に横濱長崎の兩地は閉鎖され殘れるは中部各地收容の分のみとなりしが去十二日午前六時輸送船ウオロジテー號四日市へ入港したれば本船に濱寺及び名古屋の俘虜二千三百十九名を搭載せしめ十四日夜を以て拔錨したり其餘の殘員は三千二百餘名なるも英船モナルフ號の廻着を待ち全部乘船せしむる筈なれば全國に於ける俘虜全員の引渡濟となるは遲くも本月二十日以後なるべしといふ

●生駒の進水式 目下吳海軍工廠にて建造中なる一等裝甲巡洋艦生駒は工事も略々竣成を告げたるに付來る三月下旬を以て進水式を擧行する筈なるが同艦は舊臘進水せし筑波の姉妹艦にして排水量一萬四千六百噸を有し昨年二月起工せるものなり

●露國中將の敍勳 露國俘虜受領委員ダニロフ中將に對し今回勳一等瑞寶章を授與せられ隨員へも勳三等旭日中綬章以下夫々敍賜せられたる趣なるが日露開戰以後露國人にして本邦勳章を授與せられたるは同中將一行を以て嚆矢とす

●露國公使館の國旗 去る三十七年日露交渉談判破裂して當時の駐日露公使ローゼン男國旗を撤して本國に引揚げしより露國公使館は寂寞たりしが此の程コザコフ書記官赴任し來りたるに依り過日の紀元節に際し平和克復後始めて竿頭高く露國國旗を掲げたり

●嚴寒中の樺太 樺太の越年に於ては各種の杞憂を抱くものあるも越年者一同は健全にして衣食足り日中寒暖計華氏二十度内外晴天打續き何等の異狀なしといへり

●建造中の新艦 三菱造船所に於ては目下十餘艘の新造艦を建造中なるが驅逐艦白雪、白妙、松風の三艦は既に竣成し不日白雪は進水すべしと云ふ

●三井物産の英斷 三井物産會社の門司支店にては今回非常の大英斷を以て石炭仲仕數千名を各親分の手より分離せしめ直轄事業と爲すべく豫て交渉中なりしが種々困難を排し愈々去る十五日より斷行することに決し誓約書を徴して落着を見るに至れり是れ日本勞動問題の一進歩と云ふを得べし

●滯口別莊の奇禍 金州丸事件にて露國に捕虜と爲り今回歸還すべき滯口少佐は豫て鎌倉に別莊を有し居れるが少佐の敵の爲に捕へられて久しく其主人を缺けるより少佐の知合なる某軍人は先頃戰地より歸りて負傷療養の爲め暫し此別莊を借ることゝなりに鎌倉の村民等は之ぞ滯口少佐の歸還したるならめと思ひ[illegible]し其人の引越し以來瓦石等を邸内に投じて屢次建具家人等を傷けたる事さへありしといふ

●滿洲近事

▲北滿洲の露國軍票 露國が戰役以來我邦と同しく軍票を使用しつゝあるとは豫て聞及へる所なるか過日哈爾賓の騷亂以來全く信用を失墜し該地方清國商人間には流通停止の姿と爲れる爲め露清銀行の狼狽一方ならず露國軍憲に請ひ清國人の其授受を拒む者には嚴重の處罰を加ふへきをと爲せる所清國人は皆店舖を鎖して營業を爲さゞる爲め露國軍隊の不便は言ふに及はす清國商人の損害も一通りに非されば吉林將軍には其救濟方法に就き北京駐紮露國公使と速に商議を開かれたき旨外部に電請せりといふ

▲黑龍江の新政 黑龍江將軍程德全氏は露軍の撤退を期して大に該省の改革を行はんとしつゝあり目下部下を各地に特派し諸般の項目を調査せしめつゝありしか大約纏まりたる由にて今新政施行の内容を聞くに左の如し

一、荒地を開墾して民官を設置する事
二、巡警局を設立して地面を靖むる事
三、裁判所を立て、訟訴を案する事
四、森林を修栽して材木業を盛んにする事
五、礦務局を設けて利源を開く事
六、廣信公司を立て、圜法を維ぐ事
七、漁鹽公司を設けて實業を興す事
八、工藝廠を設けて織業を興す事
九、交捗局を設けて外交を運むる事
十、厘捐局を設けて商税を徴する事
十一、學堂を設けて人才を育する事
十二、煙草及酒に加税して財政を裨くる事

▲伯都訥開放の説 日清協約に於て滿洲内地十六個所を開放すると爲れるが昨今黑龍江將軍より伯都訥を開放して通商口岸と爲すの急務なる旨を奏請に及ひたるを以て多分長沙河南の章程に照し遠からず開放するに至るへしといふ

▲露人殺害事件の結着 戰役中黑龍江駐紮露國將官が兵卒三名と共に東部蒙古を旅行し馬賊に殺害せられしとあり爾後該件に關し露清兩國の間に交渉を開きつゝありしが右は戰爭中露國軍人か清國に一應の照會も爲さす恣に蒙古内地を旅行せしものにて清國にて之を保護すへき方法無く從て責任を負ふへき理由無しとて此程露國の要求を拒絶し其損害賠償に應せさるとと爲れりといふ

▲露人の亡狀民地の略取 頃者黑龍江將軍より外部に電告する所に據れは東清鐵道會社は呼蘭廳所屬馬家口地方に於て民地百餘畝を强て之を略取せんとしたるを以て民情洶々として何時擾亂を起すや圖り知るへからされは速に駐北京露國公使に照會して同會社をして民地を返還せしめられたき旨を以てせるを以て外部は直に其旨露國に交渉したりといふ

●北清事變以前の營口

松倉善家氏は熊本縣の人にして東肥洋行の主任也昨夜一夕酒席に於て記者に向ひ營口の往時に就て語る所頗る詳細なりき然かも顧れは健忘の記者今日に於て能く耳底に存する者幾何もなし左に記する所は即ち記臆に殘れる談中の二三と知るへし

▲人口 北清事變以前に於て營口に在住せし同胞の數は甚た少く總体に於て僅々五十名内外に過ささりき其の少數增加せしは實に北清事變後即ち露國の營口を占領せし後なりとす

▲商業 從て邦人の商業なる者は擧けて云ふに足らさりしと雖も、其の資力と人物とに於ては、到底今日の比較に非さりき蓋し當時は同胞少數の爲に同胞を相手に營業する能はす其の營業は土人相手なれは資力なき者は營口に在て營業する能はす故に營業者は概して相應の資力を有し而して人物も概して揃ひ居りたる如し

▲商店 當時の商店は、正金銀行、三井洋行を第一に、我か東肥洋行、乘松洋行、海仁洋行、瀛富洋行等の、數軒に過ぎし

▲家屋 回顧すれは是等の商店は大抵支那人の一間若くは二間を借り入れて開設したり現に三井洋行と雖も然りし也、他は以て推すに足らすや唯た我か東肥洋行は農商務の陳列所を依頼されたるのお蔭にて獨立以て別に家屋を借入れ營業したり

▲雜貨 當時と雖も雜貨等を販賣せし者無之りしに非す現に我か東肥洋行の如きも雜貨の販賣を以て一業と爲せしも、合せて又た他に豆糟等を賣買せしと同く其他の雜貨商人も概ね、豆糟の賣買を兼業と爲さゝるは非らさりき

▲外人 當時に於て外人は果して幾人なりしか確實の員數は今ま記臆を脱したるも、大約今日も外人の人數を少々減少せし位にて從前も今日も外人は格別に人員の上に變動を觀さる如し

▲交情 同胞は總体に於て僅々五十名内外のみなれは其の交情の厚さは決して今日の比にあらす毎日〳〵往復して宛も、親類同樣の交際を保ちたり、現に其節は領事館の如きも、田邊領事の外には一二人の日本人ありたるに過ぎされは自分も二六時中殆んと領事館に於て消日せり回顧すれは鯨飮共に夜を徹したるも珍しからす

▲匪賊 此の事變の際には在留同胞は凡て義勇兵となり、四方を警戒して護衛に努め政府より日清戰役の分捕軍艦中鎭南、鎭北を派遣して警戒に任せしめ、更に千代田艦も投錨警戒に任したり

▲道臺 道臺も、亦た日々部下を引率して市内を巡視して警戒に努力せしを以て、自分等も別に危險を慮からさりしも、奉天の副將軍某か、多數の清兵を引率して南下したりとの風説一般に稱道せられたる時は市中何となく洶々として無賴の土人は時を得顏に出沒し不穩の形勢を示し、結果同胞も、一時軍艦内に避難するに至りたり

●過爐銀の存廢 營口に於て過爐銀を發行する所謂銀爐なる者は總數に於て二十餘軒之れあるも是等の銀爐は一軒として自己の蓄えに係る過爐銀に對する相當の正貨(元寶銀)準備を用意せるに非す將た貸借對照表の如き者を調製して時々取引先には勿論監督官廳に提出するにも非す即ち唯た任意を以て發行し任意を以て貸借の關係を增減するに過ささす更に顧て一方に於ける制裁に觀れは殆んと一物の有る無し危險極ると謂はさる可らす且つ夫れ之を邦人の側に觀察すれは其の性質の容易に窺ふ可らさる愈々土人との商取引に於て不利を蒙り、延ひて日清貿易の進歩を妨くるのみ、聞之く其筋に於ても目下大に此の邊の事情に注意し場合に依つては斷乎たる處置に出て以て積弊を一洗するの意向なりと、而して更に聞く所に依れは日清實業協會に於ても昨今頻に其の存廢に付て研究する所ありと云ふ想ふに過爐銀の存廢は營口の經濟界に於ける重且つ大の問題にして其の結果の如何は苟も營口に在りて事業に從事する者に於て直接に將た間接に影響を辭す可らさる者なれは一般の在留民に於ても對岸の火災視せす愼重の注意と冷靜の頭腦を以て其の成行を熟視する事極めて肝要なるへし

●鐵路輸送營業に就て 十四名の二萬圓の保證金納付者中今日に於て既に營業を開始せる者は五六名に過ぎさるも一説には保證金納付者以外に於て尙は一二名の營業者あり更に大石橋にも此種の營業者尠からさるとの事にて二萬圓の保証金納付者は斯くては大金を納付し營業の特權を所有するも、何等の效力もあらされは其筋に於て嚴密に取締りありたしと二萬圓の保證金納付者の組織に係る東清鐵道輸送組合に於ては昨今委員を以て其旨を其筋に請願の準備中なりとか一應最もの次第と云ふへし

投書かご

▲病院の向側の下水道は此寒氣で蓋板が皆氷つて居るが其氷つた上から近所の者が皆汚水を馬穴に運んで來て流すので往來が極めて不潔である(衞生家)▲營口で喰薰專門の平民的料理店は山金と今金ちや之を營口のリヤン金と申します極めて單調ではあるが我輩は斯る飲食店の發達を希望するのである(一平民)▲物價が安く爲り銀票が高く爲つたに拘らずナゼ斬髮料は下げ無いのだらう自分は床屋制裁の爲めに一ヶ月二圓の斬髮を一回に減じて了つた(床屋征伐生)▲MM君の好意を謝す御宿所御知らせ下され候はゞ仕合に候へども御差問あらば雜誌を編輯宛御郵送相叶ひ間じく候や(編輯)

雪十句

大雪候と言上したる御寢間哉 けん坊
降れや雪我れに酒あり豆腐あり 同
朝朗らけ唯た滿洲は雪ばかり 木毎
支那人の手鼻して行く雪路かな 同
乾外に道ありゆきの遼河哉 きん坊
雪の朝兒を背負ふたる納豆うり 禿女
雪降て藝者の紋の黑き哉 同
降る雪や何を見つめて木の鳥 圭月
雪の朝先つ郵便に道をつけ 同
降る雪に瓢ふり見る庵主哉 鷺眉

汽車 發行

▲上行車時刻表

車站名	開 午點分	到 午點分
新民屯至溝帮子	上六、〇〇	上九、五七
溝口至山海關	上八、二〇	下六、〇〇
山海關至唐山	上一二、一八	下六、二〇

▲下行車時刻表

車站名	開 午點分	到 午點分
北京至山海關	上八、〇〇	下六、二〇
北京至天津	上一一、二〇	下五、四一

野戰鐵道普通輸送列車發着時刻表

大連奉天間 下り列車

驛名	發着時刻	
大連	發午前 九、〇〇	
		發 一一、二九

驛名	發着時刻	
遼陽	着午後 三、五〇	發 四、五五
大石橋	着 一〇、三二	發 一一、三五
金州	着翌前 二、二〇	發 三、一〇
大連	着 五、三二	

上り列車

旅順	發午後	二、〇三
大連	着	五、三一

營口線 下り列車

大石橋	發午前	一、〇〇

天氣

營口地方 自昨日午後六時 至本日午後六時

東北凶作地窮民救恤義捐金募集

東北三縣の凶作は國家近來の大慘事たり之を天保年間の大饑饉に比するに優るも讓らず各官廳及び地方有志は夙夜救濟の道を講ずと雖も窮狀日に益〻甚しく翅に地方自治機關の之が爲めに停止し國民教育の之が爲めに沮滯せるのみならず幾十萬の窮民坐して死を竢つ能はず山に木皮を拾ひ野に草根を掘り僅に露命を繫ぐに至る而も今や時冬天に會し饑寒交々至りて復た食と衣とを得るの道無く父母妻子東西に流離して乞丐と變じ餓莩路に横はるの慘劇將に臻らんとす是に於てか我内地に於ては東北三縣の舊藩主貴衆兩院議員等胥謀り東北三縣救恤會なるものを起し以て是等窮民振恤の方法を講じ在京各新聞通信社亦其擧を贊して均しく義捐金募集に着手せり我社固と涓埃の力敢て當るに足らずと雖も其慘狀を聞くや既に久しく同情の念轉々已む能はず遂に聲援を我同業者に致し以て幾多窮民が焦眉の急を救はんことを期す江湖の君子庶くは本社の微意を諒とし應分の義資を投ぜられんことを其規定左の如し

一、義捐金額は一人拾錢以上とす
一、受付期限は二月二十八日迄とす
一、義捐金は直に本社に送附せられたし
一、本社が受付たる義捐金は毎日正金銀行に保管預入を爲すべし
一、期限後は之を一纏めとし東北三縣救恤會に送附し其配分方を托すべし
一、義捐者人名は本紙廣告欄に掲載し受領證に代ふ

明治三十九年二月七日

滿洲日報社

雜報

日露貿易の前途

日露間の貿易は去る三十六年までは年々增加の趨勢を示したるが開戰來頓に打擊を蒙りたり尤も歐露本國との貿易は是迄とて極めて微々たるものにして輸出は生絲、石炭、陶器、漆器等にて年々約百万圓、輸入は水銀、砂糖（ザラメ）等にして約三十万圓に過ぎざるも露領亞細亞との貿易は割合に多額に上り輸出は米、蔬菜、果實、繩、索、叺及び莚、石炭、雜貨等にして年々約八百万圓、輸入は鹽鮭、鱒、魚粕、石油等にして約二百万圓全計一千万圓に達し之を英、米、獨、佛、伊、淸等の諸國に比すれば及ばざる事遠しと雖も是迄は所謂直輸入業を營むもの尠なく輸出入共淸商又は英人の手を經たり是を以て開戰後間もなく機敏なる彼等商人によりて巧に取引せられ戰時中も相應に商品の動くを見、歐露本國との如きは漆器は獨逸を經、屑物は佛國を經たる等其額も相應に上りたり殊に近來注目すべき新現象を呈したるものあり其は橫濱其他一二貿易港に於ける漆器、陶器美術器等の各雜貨類が露國人の買入に依りて非常なる盛況を呈したる事にして買人は最初本邦に收容せられたる俘虜にして彼等が本邦を立去るの際土產物として少許の買入を爲して歸國したるものが大に本國人の嗜好に適し殊に好奇心に驅られて本邦商品を愛好するもの多く幾分か多くの買入れをなしたるものは之を賣捌きて相當の利益ありたるより資力あるもの又は商人と結托して更に本邦に引返し雜貨品の買入れに着手したるもの丶如く其賣行の一時的なるか將た永遠に需用せらる丶ものかは今日之を知るを得ざるも日露貿易の尙開發の餘地あるを意味するものと云ふべく固より現品の直接賣買に過ぎざれば先物約定の如きは未だ見受けられざるが一人にて一万圓以上の買入れを爲すもの珍らしからず其前途を察するも本邦へ收容せられたる俘虜の數は七万有餘の多數に達したる事とて幾分我が事情に通せしもあるべく或は日本の生活風土を愛好するの情よりして日本商品を歡迎するもあるべく商品を輸入して相當の利益ありとすれば貿易の發展は頗る望みあるべく同貿易に密接なる關係を有する機敏なる商人は一層の發達を計るに躊躇すべからずと云へり

對淸貿易の近狀

對淸貿易は昨年末香港上海及び廣東地方に於ける金融逼迫爲めの尠なからざる影響を蒙りしが正月に入り幾分引緩みて金利の引下げをも見たるが折柄貿易市場は休業同樣の觀を呈せる場合なるを以て金利の下押しは商品の上に何等の影響もなく昨今漸次商談を開始せらる丶の時機に及んで又々金融緊縮の現象を呈したれば輸出品は綿絲綿布海產乾物等一体に先行き活潑ならず殊に海產物の如きは在荷益々拂底を來し市場は半休の姿となり綿絲綿布も內地は夏物用として多望なるも輸出向は淸商更に買進まず概して昨年來の好調に伴はず輸入は雜穀肥料を始め棉花苧麻等中には季節に接近せるも對淸爲換の下落は何れも不引合ならしめ且つ內地不景氣の爲め農家雜穀肥料等に對する購買力を減殺せる傾ありて玆處一般に閑散なり要するに銀塊相場の依然として高位にあるは爲換の下落を促し輸出を好調ならしむる代り輸入を不引合ならしめ同時に淸國に於ける金利の騰貴を來さしめ先月來此の成行を繼續しつ丶ありて目先北淸諸港の解氷期にも至らば南淸貿易以外に發展を見て漸次取引の頻繁を告ぐるに至るべきかといふものあり

滿洲と本邦綿布

韓國に對する本邦輸出綿布總額は僅に一百萬圓內外に過ぎざるに小幅木綿輸出業者は主として韓半島のみに囑目し販路開拓に力め來れるも戰後南滿洲の我が勢力圈內に入りてより綿布界の先覺者は早くも滿洲に於ける販路開拓に就き調査する所あり其の結果は頗る有望にて一たび鴨綠江を渡りて其の右岸一帶の地を踏査せるものは滿洲人の綿布消費力意外に旺盛なるに一驚を喫すべし即ちジャンクに由りて上海方面より安東縣附近に輸入せらる丶綿布のみにても優に毎年三百萬圓を超え殆ど韓國需要總額の三倍に當り其の綿布の品質は鍾紡綿絲を堅絲として横絲は淸國地絲を用ひたるもの最も多し特に其市價は頗る不廉にして今後日本輸出木綿の進入を見るに至らば容易に驅逐すべき十分の成算ありと云へり而して他方に於て手織布業者も亦小幅木綿の輸出を企つるに至れるは最も喜ぶべき現象にして尾勢地方には勿論從來手織のみを用ひて未だ曾て動力織機に改むるの色なかりし大和地方の如きも高田町中川吉太郎氏率先して三十八年式豐田式織機五十臺を据付け製織運轉を開始せるに其成績頗る良好にして輸出木綿一日約二百反を織上げ生產費は八十錢に上らず運賃諸掛を合するも每反二錢を要するに過ぎざるに韓國の相場は反一圓二十錢見當にして差益少からざる次第なるに更に滿洲に販路を進張するに於ては一層の利益を見ん有樣なれば中川氏の好成績を傳聞せる大和地方の機業家を初めとし京都の綿布商大忠等も中川氏と合同若くは獨立して豐田式織布工場を創設せんとし大阪にては藤野龜之助氏等も約三百臺の織機を有する綿布會社を起さん計畫あり其外機業地に於て十臺未滿を据付舊式手機に代へん爲め豐田織器を注文し來る者枚擧に遑あらざる狀況となれり唯玆に困難なるは尾張に於ける豐田氏工場は目下一日二百五十臺を製作し得るに止まり到底急激に三十八年式同氏機械を賣出して盛に手織機を驅逐し品質の改善均一を遂行して大に綿布輸出の販途を開展せしめんとするには小規模にして此の急激なる需求に應ずるに足らざればとて目下某有力家が資本貸與の考案中なりといふ

廣告

東北凶作地窮民義捐者芳名

一銀廿圓　米國人　多涙の士
一同五圓　營口三友洋行　冲田介次郎
一同一圓　同　圓本公之助
一同一圓　同　遠上藤次郎
一同一圓　同　三木彌松

一同二圓　同　朱牟田寅吉
一同五圓　牛家屯第八輪團第七補助輸卒隊　草野盛之助
一同五圓　石原智海
一同三圓五十錢　藤坂三郎
一同二圓　東原富松
一同二圓　榊海淸吉
一同二圓　興相
一同一圓　小田桐岩太郎
同　關口常俊
同　渡邊謙次郎
同　鈴木興右衛門
同　唐木金吾
同　小野寺八十八
同　高橋長治
同三十錢　鐮田寅次郎
同　板垣八郎
同　菊地政吉
同　三浦仁吉
同　福士興太郎
同　菅七之助
同　倉田富五郎
同　熊谷由松
同　畠山忠太郎
同　成田三[illegible]治
同　平周太郎
同　神萬助
同　鈴木祐次郎
同　中野芳松
同　小野寺睦男
同　小田島金太郎
同　菊地巳代治
同　佐藤長四都
同　千葉堅治
同　小野寺秀治
同　佐藤七五郎
同　千葉巳作
同　藤原傳次郎
同　福田福治
同　木村淸治
同　遠藤傳七
同　佐藤虎四郎
同　高橋權一郎
同　工藤牛四郎
同　田中多四治
同　佐藤爲郎
同　前山熊太郎
同　佐藤長三藏
同　鈴木淸郎
同　諸本彌四一
同　中島與治
同　石山貞治
同　加藤久郎
同　永澤爲八藏
同　阿部留助
同　欠端松之吉
同　長澤與吉
同　佐々木利助
同　福岡松
同　山本六
同　千葉文之助
同　須田庄吉
同　鈴木正三郎
同　齋藤財吉
同　高橋重吉
同　大沼德藏
同　根子重藏
同　竹達安太郎
同　中道申松
同　大友倉治
同　田中直治
同　成田長吉
同　佐々木誠一郎
同　赤坂忠太郎
同　小山忠助
同　佐々木彙吉
同　佐藤岩太郎
同　松原舛藏
同　太田常吉
同　三浦巳之助
同　大嶋太吉郎
同　三浦謙助
同　畠山淸之助
同　津谷留吉
同　久保酉松
同　關本綾平
同　佐藤彌太郎
同　忠村正吉
同　戸澤與右衛門
同　高橋吉助

一同　佐藤淸治
同　菅原壽三郎
同　林貫一
同　松澤傳助
同　佐々木泰藏
同　坂井孫吉
同　佐藤久治郎
同　早藤爲太郎
同　鈴木龍之助
同　曾根久作
同　齋藤豊治
同　藤岡晃
同　日野義藏
同　佐藤金之助
同　內澤角助
同　莊司辰五郎
同　伊藤竹吉
同　高槇庄次郎
同　高橋勇三
同　豊島善藏
同　中野長松
同　小野寺道藏
同　新關留藏
同　工藤錄治郎
同　植田松吉
同　黑澤文次助
同　武田與太助
同　齋藤重三郎
同　小林吉三郎
同　及川榮郎
同　佐々木喜治
同　鈴木寅松
銀二十錢　野崎京郎
同　福原三五吉
同　白戸寅作
同　阿保淸松
同　村山力吉
同　中島留治
同　志藤菊藏
同　圓子傳郎
同　高橋吉五吉
同　鈴木巳之吉
同　石田長郎
同　鈴木與一松
同　木谷長郎
同　加賀市太郎
同　大瀧小一郎
同　大崎長次郎
同　遠藤金作
同　佐竹長藏
同　渡部彌吉
同　太田直作
同　山方政太郎
同　相馬直太郎
同　田中勇八
同　照井嘉三郎
同　加藤金藏
同　八重樫辰五郎
同　船橋金之丞
同　堀江和三郎

計九十六圓十錢
累計二千五百三十圓十五錢

開店披露

弊店儀從前より營口に於て營業罷在各位の御引立を蒙り難有奉厚謝候尙は今般奉天小西門街金城館前へ第三更科支店開業仕候間一層御愛顧之程奉希候

月　日

營口元神廟街　第一更科
同永世街　第二更科
奉天小西門街金城館前　第三更科

各位

右今般新着仕候間可成至急御申込願上候

消火器

英治洋行
營口南北街

競賣廣告

第一號　二輪荷馬車　千參百輛
第二號　二輪荷馬車輓具　五百副
第三號　一人挽徒步車　三千輛

此入札保證金は各自見積代金百分の五以上

右競賣に附し賣却す入札望の者は當所倉庫に就き（自午前十時至午後四時）間現品及入札心得書並に契約書等熟覽の上來る三月二十日（自午前十時至正午）入札書差出すべし但即時開札す

此契約は門司野戰兵器本廠奉天出張所長西野雄太郎擔任す

明治三十九年二月二十日

奉天停車場南方約八百米突に在る（山西會館附近）

門司野戰兵器本廠
奉天出張所

拍賣告白

門司野戰兵器本廠奉天出張所玆於日曆本年二月二十一日在奉天倉庫拍賣車輛願欲包攬者每日自上午十點鐘起至下午四點鐘止須到該處詳看車輛拍賣知及合同樣式限於三月二十日自上午十點鐘起至晌午須呈入札書即行開札再立此合同者爲門司野戰兵器本廠奉天出張所長西野雄太郎

計開

第一號　双輪搬貨馬車　千三百輛
第二號　双輪搬貨馬車用車套　五百副
第三號　人力單拉車　三千輛

承買者均須將各自估價一百分之五先交作押

明治三十九年二月二十日

在奉天停車場東南方淸里一里半（山西會館附近）

門司野戰兵器本廠
奉天出張所

生徒募集

今般本院に於て在留邦人子弟の爲め尋常小學部を設置し曩に督促書を差出したるも尙遺漏の分もある可くに付特に廣告候條學齡者は至急本院へ照合し入學手續を爲すへし

營口　瀛華實學院

營口瀛華實學院招入學生

本學院肄業諸生頗着成效惟是從去歲常有陸續來學者本學院雖亦收入然班次不齊以致授課之時諸多未便玆因添設樓宇地勢寬宏學生宿舍各種器具無一不備現擬招入學生俟額數充足即行擇期一律入學有志願學者速到本學院報名每日上午九點鐘至下午兩點過期不候特白

營口瀛華實學院

Yano & Co.

矢野洋行

Telephone No. 137 電話一三七

諸雜貨、家道具類、呉服反物、蒲團類、婦人用小間物、下駄、足袋、食料品、其他種々

今回新荷着致候間直段ゟ極安價を以て御用に可應候に付何卒多少に不拘御用命の程偏に奉願上候

謹言

雜貨卸商

在元神廟營口街

關東公司雜貨部

石材、碎石

並に自家製造 廉價販賣

瓦煉瓦

營口元神廟街四十號第二號

順吉洋行

菓子用藥品新荷着

醫藥賣藥醫療器械

重曹

硇砂

炭酸安毋

ヲーラミン其他

東瀛大藥房

營口永世街

澤之鶴淳良にして風味高尚なり

並ニ

札幌ビール

朝日ビール

政府專賣口付紙卷煙草

朝日

大和

酢

醬油

瓶詰樽詰

菓子

罐詰色々

洋酒類

取次販賣

醸造發賣元

宅合名會社

本店 大阪府堺市九間町

小樽支店 北海道小樽湊町

臺北支店 臺灣臺北街書院

基隆支店 臺灣基隆街石牌

臺南支店 臺灣臺南街下南河

函館出張店 北海道函館區辨天町

遼陽出張店 清國遼陽城内西街

大連出張店 清國大連市

營口支店 清國牛莊港東營口

婦科專治靈藥

奏功如神仙

名聲掩四海

大日本東京津村順天堂 大藥房處修

此藥專治婦科諸症如經血子宮虛冷、白帶赤帶胎前產後諸症、惡阻、呑酸、吐水、諸症難產、流產、或漏洩、不安諸症、經水不調、經期不順、或在經前經後病痛諸症、經逆、經衰發起、火氣、手足腹痛、頭暈目眩諸症、復治男女感冒風寒及疝瘕等症、誠救苦之妙藥濟世之至寶也

子宮病、血の道等婦人病一切の妙藥なり

總批發處大清國營口永世街(二本町)

藥司洋行

藥劑士 淺野大藥房

其他各國有名靈藥發售處醫藥及醫療器械

雜貨

醬油

木炭

すし米

清酒

大樽 半樽

營口西北街

阪神組

滿洲大販賣所

遼陽停車場前

池上出張店

奉天

池上出張店

SPECIAL LIGHT

(PILESNER BEER)

スペシャルライト賣出し

スペシャルライト、はピルスナビールにして此種のビールは日本に於ては弊社始めて之を醸造せり

スペシャルライト、は高價を拂ひて元料を特選せり

スペシャルライト、は其味輕くして高尚なり

醸造元 大阪朝日麥酒株式會社

營口發賣 關東公司雜貨部

標子

木板

木料

發賣

營口青堆子

清水堂木局

大日本帝國醫科大學模範藥局特約用

攝津灘石崎合資會社釀造

澤之鶴

醇良清酒

滿洲特約大販賣

裕和盛

清國營口西北街

電話八十一番

裕和盛販賣品目

○酒保用品雜貨

○日本酒澤之鶴樽詰瓶詰

○洋酒食料品各種

○和洋煙草各種

○菓子類各種

和盛本支店所在地

○本日本長崎梅香崎

○支店清國、芝罘

○支店韓國京城、仁川、木浦、旅順、鐵嶺、

裕和盛は清商中日本通の張本

澤之鶴は既に評定ある天美祿

景品御料理御披露

私儀去月中蕎麥料並に道具仕込みの爲め歸朝致し居ましたが此程種々の珍品を仕込みて立歸りましたを幸ひ平常の御引立に酬い度と思ひますので此際更に大勉強をしまして從來の御料理を吟味します外新に左記の價額にて釜飯湯豆腐の二品を加へ籤引景品を差上ます

新御料理

加藥飯 御壹人前 銀五拾錢

親子飯 仝 上

湯豆腐 一鍋壹 銀貳拾五錢

但釜飯は加藥親子何れでも御二人前以下は御調進出來ませぬ景品は御勘定(銀貳圓)に對し一枚の割にて景品券にて差上げ置き今回の籤券數二千枚を出し盡しました時に有志の御方々の御立會ひを乞ひまして籤引致し景品券を引換へに差記の景品を進せます何卒陸續御入來之程を偏に希ひます

景品目錄

第壹等		銘酒澤之鶴	七樽
第貳等		仝	三樽
第參等		指環	壹個
第四等	二本	五匁附純金	壹個宛
第五等	三本	銀側懷中時計 (代價二拾圓)	壹個宛
第六等	四本	旅行用皮製カバン (仝拾五圓)	壹個宛
第七等	五本	旅行用化粧道具 (仝拾圓)	壹個宛
第八等	六本	膝掛け (仝八圓)	壹枚宛
第九等	七本	絹紬 (仝六圓)	壹反宛
第十等	八本	メリヤスシヤツ (仝五圓)上下	壹組宛
		卷烟草入 (仝貳圓)	壹個宛

明治三十九年二月十日より

元神廟街

翁亭

長谷川金次郎

時刻

山海關至北京　上八、〇〇　下六、四五
天津至北京　上二、〇〇　下五、二〇
塘沽至北京　上六、〇〇　下二、〇六

天津至山海關　上六、二五　下六、二一
唐山至山海關　上六、〇〇、　上一一、五八
山海關至營口　上七、〇五　下四、五五
溝邦子至新民　上三、〇〇　下六、五七

天津午前一一、〇〇
天上り列車　若午後一二、〇六

大連發午前七、三〇
旅順着一〇、四九

營口發午後十〇、二五
大石橋着翌前一二、二〇

豫報

昨日の氣温
最高温度廿二度　昨年との比　一低三度四
最低温度十五度八　高低十一度

宮門抄

二十四日
禮部　太常寺　正紅旗值日無引　見　禁金台等同鄉官謝　恩
徐中堂假滿請　安　太常寺奏派致祭
黑龍潭　白龍潭
派出富康　與恩
召見軍機　奎俊

上諭恭錄

二十四日奉　朝日壇朕親詣行禮欽此
上諭二月二十七日祭
旨松溎着補授西安將軍欽此
旨廂黃旗漢軍副都統着德麟補授正白旗漢軍副都統着樸壽補授欽此
上諭三載考績爲國家激揚大典中外滿漢諸臣有能共濟時艱勞勣最著者尤宜特加甄叙其年庸衰病者亦難曲予優容茲當京察屆期吏部開單奏請朕詳加披閱軍機大臣總理外務部事務慶親王奕劻謹慎忠純力持大體竭誠籌畫悉協機宜着交宗人府從優議叙吏部尚書鹿傳霖外務部尚書瞿鴻禨協辦大學士學部尚書榮慶巡警部尚書徐世昌戶部尚書鐵良同心襄贊共矢愼勤均着交部議叙大學士王文韶歷中外夙著勤勞大學士孫家鼐老成厚重衆望交孚直隸總督袁世凱經畫悃　勳勞懋著署兩江總督周馥辦事實心不憚勞瘁湖廣總督張之洞謀慮精詳力任艱鉅署兩廣總督岑春煊任事勇往勞怨不辭着交部議叙協辦大學士禮部尚書徐郙精力就衰工部右侍郎李昭煒內閣學士兼禮部侍郎銜貴昌印啓都察院左副都御史奕才具平庸均着原品休致倉場侍郎劉恩溥江蘇巡撫陸元鼎均着開缺另候簡用餘着照舊供職欽此

文牘錄要

大名縣條議學生公費自費章程及學堂改歸自費稟並批

敬稟者竊查學務處印寄　憲札飭令各屬研究所擬議公費自費章程以備採擇夫欲期教育之普及固宜急籌公費而籌公費之難厥有數端紳民歲入之數不能覈實民自呈報必多隱匿官爲稽考必滋騷擾其難一富民封殖自私責令貲擔學費雖捐貲設學者時有所聞不過千百中之一二施以强迫不免怨謗橫生其難二州縣公務殷繁地方籌捐之事不能不藉手於紳董公正者未必皆任事任事者未必皆公正不得其人流弊滋多其難三況各村所出高等學堂經費大都按上中下三等籌捐前之捐者未齊後之捐者又起民力恐有所不繼其難四處此四難公費將遂不可行乎則又不然是在因地制宜因勢利導天津河間保定冀深等州郡富商財產不僅資乎地畝風氣已開學多民立大名廣三府率以地多爲富欲覈紳民歲入之確數視地產多寡爲準的但於淸查戶口時令各村查填某戶執業地畝造冊報官則上中下差等一目瞭然照現在中國人民程度冀富者慷慨捐貲爲公立小學之費猝難及此卑職愚見方今停止科舉已奉　明詔又奉　憲台通飭各學堂畢業生分別優免差徭人人皆知趨重學堂機棖爲之一轉擬即曉諭四鄉凡一二百家以上之村或村小而民富者應各籌設初等小學一所先就各村舊有義學租息以及廟會公產酌量提撥不足再勸業地三五頃以上之家分等捐助學費其有紳民捐貲創設學堂請予特獎鄉村初立小學有義學改設者有私塾改良者規模未能完備教法不能整齊核計每設一處通年修膳紙筆煤水等費多則京錢三四百千少則一二百千此項公費隨村莊之大小量力籌辦富者出貲貧者入學不出分文斯以本地之財教本地之子弟苟其董勸得人諒無不樂於從事此卑職一隅之見所謂因地制宜因勢利導擬籌公費立學而可實見施行者也至高等小學堂學生津貼一項各屬開辦之初藉廣招徠本屬權宜之計然預算學堂歲出款目實以津貼爲大宗果能概改自費庶經費不虞短絀添招二班學生亦覺從容卑縣學堂諸生經齊查學王教員剴切演說慨然願辭津貼改歸自費卑職親臨運動會當場獎勵嘉學生之有志不讓行唐專美遂具公函傳告其家一概列作衿戶格外優待可見學界文明日有進步一邑如此他邑可知但得查學勸學之員鼓舞而歆動之則學生自費之風可以漸推漸廣也謹就管見所及分擬公費自費章程是否有當理合繕呈清摺稟請　宮保大帥察核俯賜訓示祗遵肅稟恭叩　勛安伏乞　鈞鑒

督憲袁批稟摺均悉仰學務處一併彙案核飭遵照具覆此繳

東京電報

●英國皇甥到日本

日前英皇簡派其甥孔洛多親王齎英國最高勳章赴日本上程已經一閱月日昨已到東京　日皇親往於新橋車站爲握手之禮親王乃與日皇太子及有栖川宮同駕馬車赴霞關離宮住留沿道恭迎者極多按從來雖外賓到日本　日皇未嘗出迎有之則以此次迎英國皇甥爲嚆矢云　（西二月二十日到）

●皇甥晋謁與日皇答訪

日昨英國皇甥孔洛多親王晋謁　日皇捧呈英皇所贈之家他大勳章而退日皇親答訪親王於霞關離宮贈進大勳位菊花大綬章云　（西二月二十一日到）

中外要聞

●西甯電詢外部　據外部消息西甯辦事大臣電云俄人伊鄂按氏在彼處招募華工圈攔地界聲稱修蓋教堂經本大臣向其查詢彼稱貴部曾經允准在案今特電請大部曾否有無允准望希電覆等語

●京榆鐵路餘欵　直隸總督袁世凱會同胡燏棻侍郎飭令公司將京榆鐵路自開辦至三十一年出入欵項核算清楚共得餘利八百三十一萬兩餘除開銷各欵並提花紅銀兩其餘奏歸公家撥用所分花紅爲多數者以袁胡各分八千以次官員均按遞減

●官彩票着毋庸議　日前戶部侍郎遞請在北京設立官彩票惟一二品官准予買票彩銀存庫由部行息一摺奉　旨着勿庸議

●革除餽贈積習　軍機大臣會議欽奉　上諭賞給養廉自應實力革除一切餽贈不得互相私受昨已擬定咨行各省將軍督撫司道等官嗣後一概不准仍沿舊習意在行賄如有送者本大臣定必奏明議處倘各該省官員有私受者准令各督撫指參以端政體云云　又聞慶親王將軍機政務兩處增加養廉之後再奏請增加督撫養廉以便革除各項陋規免致層層剝削云

●振興海軍　皇太后面諭軍機大臣作速電飭北洋大臣籌理海軍欵項並詢問各大臣保薦海軍總辦及各項人員今已電告北洋大臣矣

●東三省不改行省　政府現議定東三省及西藏均不改爲行省

●添習蒙文　政務大臣議藏地交涉正繁需用蒙文之處甚多將來中俄成約地界鑛字樣均用滿蒙漢文宜咨行學務大臣廣添蒙文一門於大學堂內並傳知各部通達交涉之員准於學堂肄習蒙古文字

●擬修造洋式樓房　皇太后召見內府大臣擬在中海修蓋覽敞洋式樓房一所專備宴會外賓之用以申敬待邦交之意當由內府繼大人奏稱奴才前曾傳廠估修因需欵甚鉅現在仍欲核減其數再爲興工等語　皇太后聞奏復問於鐵大人鐵奏以今値練兵興學需屬籌欵維艱請　皇太后暫息此無益之工先辦當時急務云云　皇太后默然良久各大臣遂亦退下

雜報

●派員查勘葦塘　前聞河北葦塘諸宗頭等擅敢將附河塘地方千丈出賣於某商業經書劵幸未納直該商執劵往海城稅契管大令乃詳請於趙次珊軍帥軍帥批駁乃遴派委員二名來河北查勘餘地昨日至河北執站假館傳說先行勘查近河一切房間再行勘查葦塘餘地云云

●土藥捐法改良　昨由省垣來人云先前鄉民凡種罌粟花者盡其田畝無甚稅捐惟以土藥販越城埠各行納稅今正督憲趙次帥出示曉諭土藥章程改良凡種土藥者無論畝收概按田每畝徵庫平銀拾兩云云

●河北車站來貨　河北軌車近由秦隍島所運南來雜貨布類等件堆積無數藉俟氷舟撥至於本埠前日撥過雜貨六十餘箱昨日撥過布貨五百餘件今日又撥過布貨參百二十餘件又洋鹼貳百捆云

●倡立國民捐　本埠官商擬辦國民捐聞其章程業已繕就不日開辦頃又聞本埠郵政局漢文供事郭心農何家驥二人每月薪水拾二兩與河北第一分郵局巡查供事榮華齋每月薪水三十兩三人因閱報端有感國民捐一事熱心激發於是郭何二人郵函北京每人輸捐五元榮乃京師人家稱中貲其家已輸二十元本人又輸二十元云

笑林

●靈圓巧滑　有一老州縣談做官之訣竅曰官訣只有四個字叫靈圓巧滑這四字缺少一個不成有機必覺謂之靈隨緣能轉謂之圓用術不窮謂之巧遇難不滯謂之滑只精熟此四字做起官來沒有不得意的但有一層國事敗壞也就是這四個字

●衣冠齊楚　有一京官請客衆客都是便衣有兩客後到係從衙門內散下來所穿是官衣補褂一是山東人一是湖北人同席有一　有東方滑稽癖好詼諧笑曰恁兩位官服而來眞可稱衣冠齊楚齊是說山東楚是說湖北頗見語妙

NEWCHWANG, THURSDAY, FEB. 22, 1906.

To-day being Washington's Birthday, the American Consulate-General will close.

The weather keeping moderate since the last heavy snowfall, the snow has disappeared from the housetops, congealing into rows of huge icicles hanging along the eaves. What strikes the eye as exquisitely beautiful is the boughs of every tree coated with hoary crystal, giving to a distant Japanese view a fascinating effect of cherry blossoms bursting out in profuse bloom.

From the latest Tokyo wire, we learn that H.R.H. Prince Arthur Connaught arrived at Yokohama on the 19th. instant, as previously expected. On his reaching Tokyo, His Highness was cordially welcomed at the Shimbashi Station by H.I.M. the Emperor in person, who shook hands with Prince Connaught, an unprecedented mark of the highest courtesy ever paid to a foreign visitor. After a little rest, the Prince drove off, through large respectful crowds who turned out to offer a hearty welcome, in the same carriage with H.I.H. the Crown Prince and Prince Arisugawa to the Kasumigaseki Detached Palace placed at the disposal of the Royal visitor who will stay there for a week. The 26th. inst. falling on the Silver Wedding anniversary of T.I.G.Ms. the Kaiser and the Kaiserine, the prince will remain in the capital another day, in order to attend the grand banquet to be held in the evening at the German embassy. The Royal party will leave Tokyo on the 27th. inst. and stopping for the night either at Shizuoka or Nagoya, and for the following night, at Kyoto, will cross the Shimonoseki Strait to take the Kyushu railway line for Nagasaki, thence to proceed by sea to Kagoshima, the native city of Admiral Togo and Gen. Kuroki, who are of the Reception Committee. After two days, the Regal suite will start on the return journey, touching Hiroshima on the way, and, spending 5 or 6 days in making a sightseeing tour of Kyoto, Nara, and the adjoining localities, which abound in picturesque scenery, historical relics, and masterpieces of Japanese fine arts, will go back to Tokyo and then to Yokohama to embark directly for Canada on March 16th.

We are informed that Miss McIntyre and Mr. Leitch will be united in marriage—the first nuptial ceremony since Japanese entry into the port—at Rev. Mr. Carson's chapel at 2.30 p.m. on the 27th. instant. (Tuesday). Rev. Dr. Ross of Mukden officiating, assisted by the bridegroom's intimate friend Rev. Mr. Fulmer of Kwangning. The bride will be waited upon by her two sisters Misses McIntyre, while Mr. Anderson of Kaopantze will be the groomsman. The wedding reception is to follow at 3 p.m. at Mrs. Fulford's. On their return from the ensuing honeymoon journey, the happy couple will reside at Yingkow on the other side of the river. Miss McIntyre is already at the port, staying with Mr. Edgar. Mr. Leitch is due here on Monday next and Dr. Ross and his family are excepted here from the north next Friday. Rev. Mr. Webster who had left for Old Newchwang last Friday in connection with his evangelical work came home last Tuesday morning.

It should not be forgotten that the fancy ball will be given at the Assembly Hall this evening.

The bazaar held last Tuesday at the Assembly Hall turned out to be a decided success, a rough sketch of which will be given in our to-morrow's issue.

The duties of the Niuchiatun Commissariat Officer have been transferred to charge of Major Tsuda in command of the 3rd. Battalion of the new Niuchiatun Garrison under Lt.-Col. Mikami, Lt.-Col. Yokura being relieved, who is to officiate solely as Military Administrator of Newchwang.

Capt. O. Yotsumoto, adjustant to Col. Ishiguro of the Niuchiatun Garrison lately removed to Tairen, has been appointed Asst. Administrator of Newchwang, arriving at the port last Tuesday. We may add that Capt. Horikoshi will, however, act for Administrator, during Lt.-Col. Yokura's absence.

營口旅館料理店案内（いろは順）

旅館 第一營口ホテル　元神廟街九十六號

旅館 第二營口ホテル　河岸通り

料理 第三樓　元神廟街三十二號　店主 粕屋惣兵衛

料理 入船亭　永世街百八十三號　谷初次郎

旅館 日營ホテル　河岸通り　店主 井上源吉

料理 東京館　永世街八十六號　店主 村上京四郎

旅館 東茂旅館　西北街百七十三號　正金銀行西三番

料理 沖の島　永世街百六十五號　店主 中川清三郎

料理 吉野亭　永世街八十六號　店主 坪田正好

旅館 竹村館　永世街二十二號（電話五一）　店主 廉田久二

旅館 大和館　永世街十一號　店主 前田九一郎

料理 滿洲樓　南永世街第十號　店主 直塚勝一

料理 萬梅　豐濟門街第百〇四號　店主 田島彌助

御料理 まんなをし　永世街字二本町二百五十九號　元吉田原跡　店主 和田常松

料理 醉花園

旅館 澁谷旅館　永世街百二十七號　店主 澁田留吉

旅館 金城ホテル　永世街百六十六號

料理 第二金城ホテル　永世街百六十六號　店主 齋藤富次郎

旅館 東雲旅館　永世街七號　店主 谷口今朝太郎

料理 喜樂亭　營口元神廟街

營口軍政署御用旅館 東雲　主任 谷口今朝太郎

營口 さるそば 第一更科　さるそば 第二更科　營口元神廟街　永世街、鶴の湯角

御料理 柳亭　豐濟門街二三　店主 玉岡登人

叮嚀專一

御料理 並ニ溫泉 一力　營口永世街　店主 堀万助

和洋料理 本店 松月亭　營口元神廟街一四三號

和洋料理 御旅館 支店 滿洲ホテル　遼陽西街西門一一七号

遼陽旅館料理屋案内

旅館料理業 日營ホテル支店　主任 井上源吉

御料理會席 菊水館　主任 明枝圖挹

旅館西洋料理館 遼陽館　主任 永瀬宇吉

旅館料理業 公陽館　主任 宮川秀基

御料理會席 末廣屋　主任 山根初之亟

御料理 色々應御注文 凱旋亭　主任 古谷庄太郎

旅館御料理 遼塔ホテル　主任 木村常吉

遼陽兵站司令部指定ホテル 遼陽倶樂部　營口東雲館支店　主任 谷口今朝太郎

會席御料理 玉家　主任 西野治三郎

御料理會席 來々亭　主任 石田清

撫順炭大販賣　多少に不拘御用命被仰付度願上候　金城館販賣部

特別室落成　營口金城ホテル旅館部

藝妓仲居 新來　金城館料理部

奉天小西門外　會席御料理 高等御旅館 金城館

旅館 富喜樓　室内は極清潔防寒之設備あり　鐵嶺驛へ滊車到着毎に日本人の案内者出張致し居候　鐵嶺城東門外南へ一丁余　南大街　樓主敬白

御旅館 豐陽館　上海（電話一〇六番）　日本郵船會社荷客取扱　歐米滊船乘船取扱　館主 米田藤吉

歐米各國最新流行形 西海洋服店　永世街一四一（森病院三軒目）（電話百二十七號）

御料理 滿月　平野町一八二（電話一六二）

御料理 滿月支店　平野町（元都樓跡）　今般内地より撰り抜きの別嬪數名呼寄候に付不相變御引立の程希上樓候　店主 青木勝惠

高等旅館 彌生館　營口永世街　館主 宮下已之七郎（電四二）

和洋會席御料理　一弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に遊附且又會費等は特に割引大勉强仕候　二奉天支店も本店同樣に大勉强仕候間御光來被成下度候　營口永世街二本町 日本館本店（電話百三十番）　奉天小西門外大十字街北入橋町 日本館支店（電話十九番）

各位樣

歸營廣告　旅行中之處歸營仕候條此段謹告仕候　南永世街 富田茂次

御料理旅館 勉強館　奉天小西關外北長發園隣

旅館料理屋に對する酒肴料其他不拂の御方は此際御拂込み相成度萬一督促再三に及ふも尚ほ不拂の御方は其姓名を掲げ新聞紙を以て請求可仕候間豫め御承知相成度右は同業者協議の上及廣告候也　營口旅館料理屋同業組合

奉天日本旅館 瀋陽館　家屋宏壯清潔　接待優遇懇切　開放全時一開業　奉天小西門外大街路北

藝妓仲居 新來御披露　此度新たに内地より藝妓仲居十數名を連れ參り候間御光來の上御評判の程願上候　草々　營口 高砂ホテル 高砂（電話一四五）

發賣 料木 標子 木板 ◇（一）塩川商會　清國營口二本町二五五號　主任 鹽川峰吉（電話一三六番）　遼陽小西門内 鹽川商會

建築用材 電柱用材杉丸太長（自二十尺至三十尺）八千本　外に 北海道産松大角（自廿五尺至三十尺）一万立方尺餘　右之品多少に不拘特別安價を以て差上候條御入用の御方は御來臨被成下度候也

○上等石炭 一噸に付 銀十六圓　○上等日本米 一石に付 銀二十圓　○板材木 ○木炭 ○亞鉛板 ○洋釘 ○干擔魚 ○石灰　御小賣致候間御用の御方は御通知次第直に持參可仕候也　◇K 喜久洋行　永世街八十號（電話百五十二番）

大連 東洋ホテル　大連鐵道停車場附近民政署前兒玉町

拙者儀今回都合ニヨリ大清通運公司長ノ職ヲ辭退致候間此段謹候也　竹野虎雄

今回竹野虎雄氏弊公司長ノ職ヲ辭退被致候ニ就ヘ營分ノ内公司長ヲ置カス支配人川畑竹馬本支出張店一切ノ業務ヲ處理可致候間此段謹告候也　明治卅九年二月十三日　天津停車場内 大清通運公司

東營口郵便局東隣 島田洋服店　新民屯停車場前 同支店

諸鐵工製作　鑛山船舶機械鐵工　輕便鐵道附屬鐵工　土木建築用鐵材料　其外鑄物諸般　營口ツブ紋定商門街東會東 川喜 鐵工場

為替相場（二月十七日）
日本向 一百圓（軍票百圓に付）
上海向 七十一兩二匁五分（同）
天津向 一百〇二圓二十五錢（同）
芝罘向 天津向ト仝（百弗に付）

日本品最近物價表　石原商店
一筍ボイル 三十入 銀八圓
一フキ同 同 五圓五十錢
一福神漬 一打入 同三圓
一上白米 一石 同廿二圓八十錢
一中 同
一美濃紙 一同 同六圓八十錢
一大手帳 一打 同一圓
一スコッチ靴足袋 一打 同四圓五十錢
一洗濯石鹸 二十本入一函 同三圓
一同並 二十五本入一函 同一圓八十錢
一毛シャツ上下 打 銀二十五圓より六十圓迄
一白メリヤス上下 打 同八圓より十三圓迄
一首輪 打 同二圓
一毛糸首卷 打 仝三圓五十錢より九圓位迄

MANCHURIA DAILY REPORT.
Subscription 4 cts. a copy
80 cts. per month.

本紙定價
一枚ニ付 銀四仙
一ヶ月前金 銀八十仙
一ヶ年前金 四弗八十仙
一ヶ年前金 銀九弗六十仙